

金賞

水と生きる

野中 美遥

八女市立矢部小学校

みなさんは、矢部川の川の水がなぜ、あんなにきれいなのか知っていますか。それは、ちくご市にある矢部川浄化センターのおかげなのです。矢部川浄化センターは、ちくご市、みやま市、八女市、広川町の下水をきれいにし、矢部川、花むね川、山ノ井川の三つの川にもどすことができる施設です。

私は、使った水がどのようにしてきれいになるのか見学しました。その矢部川浄化センターで最も重要な所が反応タンクです。反応タンクには、「活性汚泥」とよばれるものがあり、その中には、微生物がいるのです。微生物の名前は、アスピディスカ、アルセラ、レパデラ、マクロビオツスです。その微生物たちは、水の中のごれを食べべてくれます。だから一番重要なのです。

それから、汚泥は最終沈澱池と汚泥処理施設を通して、脱水ケーキとなってエコセメントや肥料の原料として再利用されます。一方、水の方は砂ろか設備へ行き、さらにきれいな水となり、紫外線消毒をして川へ放流されます。このようなくみがあることが分かり、私は、水をきれいにするのはとても時間がかかることが分かりました。水があるのは、とてもありがたいと思いました。

では、自分たちのすむ矢部川が本当にきれいなのか、水生生物による水質調査をすることにしました。

川に入って調べていると、

「なんか変なのがおるー。」

友だちがいきなりさげびました。私そこへ行ってみると、ヒラタカゲロウとオオヤマトビケラを見つけていました。そして、私もタニシをつかまえることができました。また、係の先生が、エビをつかまえました。

「エビはめずらしいし、よっぽどきれいな川でしかすめないんだ。」
と聞いていたので、矢部川はそんなにきれいなんだなと考えました。でも、その先生は、

「昔よりは矢部川も汚くなっていて、平成七年ごろに子どもたちと川で遊んだときは、川の水を飲めるくらいきれいだったし、石がぬめぬめしていないきれいな石だった。」

と教えてくれました。私はきれいな方でも前より汚れているんだと思いました。

この体験をして、もっと川を大切にしたいと思いました。浄化センターでも水は川から海へと流れ、太陽の熱で蒸発して、雲となり、雨として川へもどります。これを水の循環というそうですが、私たちは同じ水を何度も使っていることになりました。

ということは、水がきれいでいてくれないと私たち人間も他の生き物も生きられません。つまり、私たちは水といっしょに生きているのです。

このように川などの水はとても大切です。私もかたんにゴミや食べ物をすてないようにしたいと思います。

皆さんも水と生きている事を忘れずに水を大切にしてくれると嬉し
いです。